

高松天満屋の東側に、2009年4月オープンしたカルチャーセンター「アルテカルチャー高松」。

一年と数ヶ月ながら、すでにクラスは百コース、講師も約百人を抱える規模に成長。その代表として企画、広報、運営までを手がける。

十年間、民間カルチャーの店長として勤務。しかし「お客様の希望にきめ細やかにこたえられる場所を作りたい」と志し独立、起業。他社との差別化の第一として、チケットで複数の講座に通えるオーピンクラス制を導入。受講生の「月額制では休んだ時にもつたい

い」というニーズにこたえている。「一年間続けてみて、チケット制、月額制ともに利用者が増えた。生徒さんが、それぞれのライフスタイルに合わせて使い分けてくださっているようです」と手応えを得た。

スムーズな運営には講師との協力関係も不可欠。子育て主婦として地域貢献で培った人脉に加え、オーブン以降に募集した講師も多い。受講生が自ら特技を生かし「講座を開きたい」と名乗りを上げるケースもある。「うちの講師さんたちは、こちらの運営に乗っかるのではなく、自分が提案し、共にがんばろうと言つて



くれる人が多い。ここでの活動がご自身の営業アピールにもなるし、講師さんとの共存共栄を目指します」通常の講座以外にも「婚活女子部」として、クラスの枠を越え、囲碁、ピラティス、メイクなどさまざまなジャンルで「女子力」アップの自分磨き活動を推進。交流の場を広げる企画も行う。特別一日教室やレンタルスペースでの講演会、展覧会などイベントも数多く開催している。

「講師さんたちに『こんなんしたいんやけど』と言われたら、とりあえず形にしてみる。小規模の個人運営だからできること」。今秋には、オープン以来初の講座発表会を開く予定。講座で結成したコーラスなどのチームを各種イベントに派遣したいとの夢もふくらむ。「運営スタッフ、講師さん、生徒さん、みんなの喜ぶ笑顔を見られればハッピー。文化を通じて出会いと気づきの場所を作りたい」穴吹興産と提携し、同社のマンション「アルファパーク栗林南」で住民向けのカルチャースペース運営や、住友林業の住宅展示場での一日講習会開催など、業務提携も拡大していく。受講生からも講師からも慕われる、飾らぬ明るい人柄で、高松の新しい文化発信を担つてほしい。



講師も受講生もみんな笑顔でいられるように
文化活動を通じて出会いの場を創出したい

アルテカルチャー高松 代表

田野めぐみさん

(高松市塩上町1-2-7ミユキビル3F 087-831-6832)